

## 論文以外のコンテンツ

|     |   |
|-----|---|
| 雑誌名 | 東洋大学大学院紀要   |
| 巻   | 53  |
| 発行年 | 2016  |
| URL | <a href="http://id.nii.ac.jp/1060/00008846/">http://id.nii.ac.jp/1060/00008846/</a> |



Bulletin of the Graduate School, Toyo University  
Graduate School of Sociology and Welfare Society Design  
Vol.53 2016

## Contents

|  |                         |
|--|-------------------------|
| Survival and conflict as Ethnic Church :   |                         |
| A Case Study of KCCJ in the Post-War Period .....  | OGI, Shoichi 1          |
| Application of the Affordance concept to Uses and Gratifications theory .....                      | YOON, Chanki 23         |
| Social Background and Function of Ryou-Youshi (custom taking an adopted child in unit of couple) : |                         |
| Social Structure of a Community located in the Tama Headwaters .....                               | TACHIYANAGI, Satoshi 37 |
| The article point About Mongolian periodical literature under the influence of Japan .....         | BING, Jun 55            |
| Effects of personality traits on cross-cultural adjustment of Chinese                              |                         |
| international students in Japan .....  | XU, Qian 63             |
|  | MATSUDA, Eiko           |
| The Factor Analysis of Juvenile Delinquency in China .....   | DING, Ke 77             |
|  | IKEMA, Airi             |
| The effects of uncertainty and curiosity on the duration of negative emotions.....                 | KANEKO, Michihiro 93    |
|  | KUTSUZAWA, Gaku         |
| Prescriptive and Proscriptive Gender Stereotypes in Japan .....                                    | KURAYA, Takumi 107      |
| A Study on the Relationship Welfare Office and Low-price Accommodation.....                        | ITABASHI, Fuminori 125  |
| Intercultural Nursing Support to Korean Aged People in Japan :                                     |                         |
| The Actual Condition of Nursing Care in Special Nursing Home for the                               |                         |
| Aged ' <i>Kokyo no Ie</i> (The Hometown's House)' .....  | NISHIDA, Tomomi 141     |
| Effect of tail suspension on osteogenic process in the rat patella .....                           | KIRA, Yuichiro 155      |
|  | KANO, Tsuyoshi          |
|  | OHSAKO, Masafumi        |
| 異なる強度の跳躍運動がラット大腿骨の皮質骨と骨膜に及ぼす影響.....  | 神尾 強司 169               |
|  | 吉良裕一郎                   |
|  | 大迫 正文                   |
| A study on the support to the mother with the autistic child of school age ...                     | MARUYAMA, Tatsuro 185   |
| Historical Research on Physical Education and Sports Policies in Postwar Yokohama                  |                         |
| —Focus on Yokohama Kenmin Shonendan— .....   | SAKANAKA, Yusuke 201    |
| 異なる非加重条件によるラット大腿骨の骨量減少に対する鍼通電刺激の影響.....  | 中井 真悟 213               |
|  | 吉良裕一郎                   |
|  | 大迫 正文                   |
| Situation of homestay services in Wakayama Prefecture .....  | TOMINAGA, Tetsuo 231    |
| A study about space of simplified toilets for  |                         |
| wheelchair by the type of the door.....  | TAKAHASHI, Mikiko 247   |
| Study on how to distribute the functions of  |                         |
| multi-functional restrooms on expressways .....  | GUNKI, Shinichi 263     |

# 大学院紀要

第53集

社会学研究科  
福祉社会デザイン研究科

2016

# 大学院紀要

第 53 集

社 会 学 研 究 科  
福祉社会デザイン研究科

2016

# 目 次

## 社会学研究科

### 社会学専攻

|  |      |    |
|--|------|----|
| エスニック・チャーチとしての存続と葛藤<br>——戦後期における在日大韓基督教会を事例に—— | 萩 翔一 | 1  |
| アフォーダンス概念の利用と満足研究への応用                          | 尹 燦奇 | 23 |
| 夫婦養子慣行の背景と機能<br>——多摩源流域一山間農村の社会構造——            | 立柳 聡 | 37 |
| 日本の影響下でのモンゴル語定期刊行物について                         | 兵 軍  | 55 |

### 社会心理学専攻

|  |               |     |
|--|---------------|-----|
| 在日中国人留学生の異文化適応支援の現状と問題<br>——異文化ストレス、留学生のパーソナリティからの分析—— | 許 倩<br>松田 英子  | 63  |
| 中国の青少年における犯罪要因の分析                                      | 丁 可<br>池間 愛梨  | 77  |
| ネガティブ情動喚起刺激の不確実性と好奇心が<br>情動持続に与える影響                    | 金子 迪大<br>杳澤 岳 | 93  |
| 日本における促進指向的及び抑制指向的ジェンダー規範                              | 倉矢 匠          | 107 |

## 福祉社会デザイン研究科

### 社会福祉学専攻

|                         |       |     |
|-------------------------|-------|-----|
| 生活保護行政と無料低額宿泊施設の関係性の一考察 | 板橋 史宣 | 125 |
|-------------------------|-------|-----|

### 福祉社会システム専攻

|   |       |     |
|---|-------|-----|
| 在日コリアン高齢者への異文化間介護支援<br>——特別養護老人ホーム「故郷の家」における介護の実態—— | 西田 知未 | 141 |
|---|-------|-----|

### ヒューマンデザイン専攻

|                            |                         |     |
|----------------------------|-------------------------|-----|
| ラット膝蓋骨における骨形成過程に及ぼす尾部懸垂の影響 | 吉良裕一郎<br>神尾 強司<br>大迫 正文 | 155 |
|----------------------------|-------------------------|-----|

|   |                    |
|---|--------------------|
| Effects of different intensities of jumping exercise on structures of<br>femoral cortical bone and periosteum in rats ..... | KANO, Tsuyoshi 169 |
|   | KIRA, Yuichiro     |
|   | OHSAKO, Masafumi   |
| 学齢期の自閉症児の養育困難と母親への支援課題に関する研究.....   | 丸山 龍朗 185          |
| 戦後横浜市における体育・スポーツ政策に関する史的研究<br>——横浜健民少年団に着目して—— .....  | 坂中 勇亮 201          |
| Effects of electrical acupuncture stimulations on bone volume of rats'<br>femur under different unloading conditions .....  | NAKAI, Shingo 213  |
|   | KIRA, Yuichiro     |
|   | OHSAKO, Masafumi   |

## 人間環境デザイン専攻

|   |           |
|---|-----------|
| 和歌山県における民泊サービスの状況.....                          | 富永 哲雄 231 |
| 扉タイプの違いにおける車椅子使用者用簡易便房に<br>求められるスペースに関する研究..... | 高橋未樹子 247 |
| 高速道路の休憩施設における多機能トイレの機能分散に関する研究...               | 軍記 伸一 263 |

## 研究活動報告

## 編集後記

社 会 学 研 究 科  
社 会 学 専 攻

社 会 学 研 究 科  
社 会 心 理 学 専 攻

福祉社会デザイン研究科  
社 会 福 祉 学 専 攻



福祉社会デザイン研究科  
福祉社会システム専攻

# 福祉社会デザイン研究科 ヒューマンデザイン専攻

福祉社会デザイン研究科  
人間環境デザイン専攻

# 研 究 活 動 報 告

報告期間 平成 28 (2016) 年 1 月～ 12 月

## 文学研究科

### 【哲学専攻】

|                                    |   |
|------------------------------------|---|
| 1月30日（土）<br>11：00～16：00<br>8206教室  | 平成27年度哲学専攻修士論文口述試験を実施した。今回の修士論文提出者は、博士前期課程2年生の3名であった。1人あたり、発表・質疑応答合わせて50分の時間を設けた。教員5名のほか、院生8名の出席があった。受験者は指導教員をはじめとした出席者からの質問に答え、各自の修士論文の成果を報告した。  |
| 2月3日（水）<br>11：00～12：30<br>6407教室   | 平成27年度哲学専攻修士論文研究報告会を実施した。博士前期課程1年生の2名が発表を行った。各自に40分の発表時間を与え、次年度の修士論文提出に向けた研究の進捗状況を報告した。本会は大学院生が中心となって企画したものであり、院生12名が参加した。今後の修士論文執筆の計画について、学生同士での活発な議論が行われた。                                      |
| 4月4日（月）<br>16：00～17：00<br>8302教室   | 平成28年度の哲学専攻新年度ガイダンスを実施した。大学院の専任教員5名のほか、学部の教員2名、院生14名が出席した。ガイダンスでは、各教員よりそれぞれの講義内容や指導方針について説明し、大学院哲学専攻の年間スケジュールを確認した。学生からは、それぞれの研究テーマ等について自己紹介が行われた。ガイダンス終了後は新入生歓迎会を行い、親睦を深めた。                      |
| 7月2日（土）<br>13：30～16：30<br>6407教室   | 平成28年度哲学専攻修士論文中間発表会を開催した。発表時間は質疑応答を含めて各人1時間で、本年度修士論文を提出する予定のある博士前期課程2名の学生が発表を行った。教員は4名、院生は発表者を含めて14名が参加した。修士論文の質的向上のため、出席者から様々な意見が出され、活発な議論が交わされた。  |
| 10月29日（土）<br>13：00～17：00<br>6209教室 | 第26回白山哲学会を挙行了した。本年度は2部構成となり、第1部では本年度文学部哲学科助教として着任した坂本邦暢氏による研究発表が行われた。その後、第2部では本年度をもって定年退官となる長島隆教授による「最終講義」が行われた。全体を通じて122名の参加者があり、それぞれの発表・講演について活発な質疑応答が交わされた。学会の終了後、8号館1階トレスダイニングにおいて懇親会が執り行われた。 |

# 【インド哲学仏教学専攻】

|                  |   |
|------------------|---|
| 6月29日<br>5310教室  | <p>平成28年度春学期院生研究発表会 第1部講演会 講師：野口圭也先生（大正大学仏教学部教授） 題目「初期密教、中期密教、後期密教」；第2部研究発表会：新入生研究計画：カムピラー・アイラダー、是松宏明、高木洋介、谷釜智洋、藤森進、星宮康子；藤井明（D2）「ブータダーマラタントラの研究 ―ヒンドゥー教版と仏教版の比較を通して」；板敷真澄（D3）「初期真宗における東国門徒の臨終来迎観」；園田沙弥佳（D3）「『大寒林陀羅尼』 Mahāśītavatī 異本について」。博士後期課程の発表内容に応じて第1部の講演会では専門家を招聘し最近の研究状況を中心に講演頂いた。</p> <p>若干の学部生も含め、教員学生を含め約50名の参加者を得て盛会であった。</p> |
| 11月30日<br>5404教室 | <p>平成28年度秋学期院生研究発表会 第1部院生研究発表：梅田 愛子（M2）「維摩経のパラドックス」；塚越 悠貴（M2）「説一切有部における波羅蜜の研究」；第2部講演会 講師：本庄 良文先生（佛教大学佛教学部教授） 題目「大乘はなぜ《仏説》か―アビダルマ仏説論から大乘仏説論へ」；第3部研究発表：通然（M2）「『観心論』の成立について」；鈴木伸幸（D1）「ŚikṣāsamuccayaにおけるRatnolkādhāraṇīの引用について」；三澤 博枝（D3）「「インド美術に見るラサの表現―ウダイプル市州立博物館所蔵『ギータ・ゴーヴィンダ』絵画付き写本を中心に―」；相川 愛美「報告：デリー大学社会科学部歴史学科学位（Ph.D.）論文について」</p>   |

【日本文学文化専攻（国文学）専攻】

|                                   |   |
|-----------------------------------|---|
| 2月3日（水）<br>13：00～18：00<br>8301教室  | 2015年度 日本文学文化専攻修士論文報告会の開催<br>【発表】（全員博士前期課程2年生） 入退室自由で参加者50名<br>菅原 麻衣： 蕉風俳諧の研究－『二十五条』の諸本をめぐって－<br>伊藤 洸： 大伴旅人「讃酒歌」の研究<br>泉川知恵子： 小堀遠州研究－遠州の作庭の美的理念－<br>細井 富江： 司馬江漢研究－随筆『春波楼筆記』の記述から－<br>井上 恵菜： 副詞研究－「やがて」の用法から見る意味の変遷－<br>只野 祐： 岡本かの子研究－仏教著作と小説「生々流転」「女体開顯」を軸に－  |
| 5月21日（土）<br>弘前学院大学                | 日本比較文化学会第38回全国大会での研究発表<br>張 琳（博士後期課程3年）<br>中国人日本語学習者の「けっこう」の誤用の原因に関する考察－中国の日本語教科書分析から探る－  |
| 6月22日（水）<br>13：00～18：10<br>8301教室 | 2016年度 修士論文中間報告会の開催<br>【発表】（全員博士前期課程2年生） 入退室自由で参加者40名<br>山崎 直紀： 助詞の研究<br>池 泰加： 『源氏物語』研究－空蟬の和歌について－<br>新鍋 早紀： 歌舞伎に見る「悪」の美学<br>善教 祐： 大正期の文芸誌にみる文学の漫画化<br>佐々木悠里： 伊藤整作品における女性像の考察<br>増井 真琴： 小川未明研究<br>中山 新也： 大岡昇平『レイテ戦記』論<br>小田切 拓： 村上春樹研究－2000年代の長編を中心に<br>梅本 一美： 江戸吉原の遊女研究－柳亭種彦著『高尾年代記』を軸に<br>徐 文瓊： 日本語母語者と日本語学習者の断り表現の対照研究－「依頼」に対する断りを中心に－<br>劉 輝中： シンガーソングライターの歌詞における詩的美意識<br>鄭 余榮： 清岡卓行の中国イメージについて |
| 7月9日（土）<br>13：00～17：30<br>6B12教室  | 東洋大学日本文学文化学会2016年度大会開催<br>本学大学院生の発表と講師による講演が行われた。<br>【研究発表】   |

|                               |  |
|-------------------------------|--|
|                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・柳亭種彦著『高尾年代記』の考察<br/>東洋大学大学院 博士前期課程2年 梅本 一美</li> <li>・伊藤整「典子の生き方」論—川端康成初期作品との関連を中心に—<br/>東洋大学大学院 博士前期課程2年 佐々木 悠里</li> <li>・「アイドルもの」アニメーションに於ける「アイドル」と欲望の関係<br/>—『ラブライブ!』、『THE IDOLM@STER CINDERELLA GIRLS』を中心に—<br/>東洋大学大学院 博士前期課程2年 中山 新也</li> </ul> <p>【講演】</p> <p>幻灯『せんぷりせんじが笑った!』(1956) をめぐる文化《工作者》たちの行き交い<br/>成城大学非常勤講師 鷺谷 花</p> |
| 10月8日（土）<br>愛媛県松山市<br>ひめぎんホール | <p>2016年度日本語教育学会秋季大会での研究発表</p> <p>張 琳（博士後期課程3年）</p> <p>中国人日本語学習者の「けっこう」の誤解と誤用の原因に関する考察—<br/>中国と日本の教科書の比較を通して—</p>  |
| 11月12日（土）<br>三重大学             | <p>日本社会文学会2016年度秋季大会での研究発表</p> <p>増井真琴（博士前期課程2年）小川未明と日本少国民文化協会</p>   |
| 12月10日（土）<br>東京学芸大学           | <p>昭和文学会の12月研究集会での研究発表</p> <p>中山新也（博士前期課程2年）</p> <p>大岡昇平『レイテ戦記』に於ける「人間」と「全体」</p>   |



## 【中国哲学専攻】

|   |  |
|---|--|
| <p>3月19日（土）<br/>10：30～17：30<br/>東洋大学白山校舎<br/>6号館6408教室</p>  | <p>白山中国学会第10回発表大会が開催され、午前の部で「博士前期課程研究報告」および「修士論文発表会」が行われ、午後の部で「博士後期課程研究発表」が行われた。参加者数、約50名。</p> <p>当日のプログラムは、以下の通り。</p> <p>(午前の部)</p> <p>〔博士前期課程 研究報告〕</p> <p>黒田祐介「孟子の赤子之心について」</p> <p>海老澤樹雲「孟子の春秋無義戦について——春秋の戦争観」</p> <p>佐藤智博「士大夫意識からみる呂赫若作品の思想」</p> <p>阿久澤巧「抄訳經典に関する考察—『修行道地經』を中心として—」</p> <p>〔修士論文発表〕</p> <p>佐藤郁佳「『論語』と渋沢栄一の福祉思想」</p> <p>(午後の部)</p> <p>〔博士後期課程 研究発表〕</p> <p>水野あゆ「中国の近代児童文学雑誌について——鄭振鐸『兒童世界』と黎錦暉『小朋友』」</p> <p>志村敦弘「王守仁の“楽しみ” —朱熹の“楽しみ”と比較して—」</p> <p>〔研究発表〕</p> <p>馬雪峰（東洋大学文学部非常勤講師）「丁玲筆下人物的食物変化」</p> <p>土田秀明「毛沢東『矛盾論』の「矛盾」の語法に関する一考察」</p> <p>〔基調講演〕</p> <p>橋本恭子（津田塾大学非常勤講師）「植民地台湾はどのような知を育んだのか——比較文学者島田謹二の場合」</p> <p>坂井多穂子（東洋大学文学部准教授）「楊萬里における蘇東坡」</p> |
| <p>7月23日（土）<br/>10：30～17：00<br/>東洋大学白山校舎<br/>6号館 6410教室</p> | <p>白山中国学会第11回発表大会が開催され、博士前期課程1年生の「研究テーマ紹介」、同2年生の「修士論文構想発表」および「博士後期課程研究発表」が行われた。参加者数、約50名。</p> <p>当日のプログラムは、以下の通り。</p> <p>(午前の部)</p> <p>〔博士前期課程1年生 研究テーマ紹介〕</p> <p>王蘇洵「老子『道德經』の研究—「道」を探す」</p>   |

車曉威「魯迅の哲学についての研究—散文詩集『野草』を中心に」  
 常天天「巴金の作品における「悲しみ」の研究—『寒い夜』を例として—」  
 豊田尚徳「康有為の儒教への態度」  
 龐芮「郁達夫小説における女性像と男女関係について」  
 李慧淳「王朔の小説に見える豊富性について」  
 〔博士後期課程研究発表1〕  
 盛田綾希「端午節の研究—蘭と艾について—」  
 (午後の部)  
 〔博士前期課程2年生 修士論文構想発表〕  
 阿久澤巧「『修行道地経』の内容整理」  
 佐藤智博「呂赫若作品思想の考察—上京以降の小説を中心として—」  
 黒田祐介「赤子の心について—朱子と程子にとっての赤子の心—」  
 〔博士後期課程研究発表2〕  
 志村敦弘「王守仁の楽しみ—音楽と心と—」  
 水野あゆ「鄭振鐸『児童世界』と黎錦暉『小朋友』について (2)」  
 〔基調講演〕  
 小路口聡 (東洋大学文学部教授)「嘉靖から萬暦年間の徽州府における陽  
 明学派の講会活動—韓夢鵬編『新安理學先覺會言』を読む—」

## 【英文学専攻】

|  |   |
|--|---|
| 5月25日<br>15:00～16:30<br>白山キャンパス<br>6315教室  | 「春季院生発表会」 出席したすべての在院生が今後の研究テーマ・目的・方針・抱負などについて報告を行った。それぞれの報告に対して、有益なコメントが各教員から出された。参加人数:院生5名（前期4、後期1）、教員6名。  |
| 10月26日<br>15:00～16:30<br>白山キャンパス<br>8502教室 | 「秋季院生発表会」 11月の英専協で発表予定の院生2名が予行演習も兼ねて研究発表を行った。それぞれの発表の後、活発な質疑応答がなされ、研究発表の内容・質を高めるのに役立ったと思われる。参加人数:院生4名（前期3、後期1）、教員5名。  |
| 11月26日<br>13:00～20:00<br>聖心女子大学            | 「第50回大学院英文学専攻協議会発表会」 今回は50回目という節目となる大会だったので、例年のプログラムに加えて、各加盟大学院の教員代表から記念の文章を集め、合わせて印刷された。例年同様、100名を超える多くの参加者が集い、真剣な研究発表と熱のこもった議論や質疑応答が交わされた。本学から参加した院生は4名（前期3、後期1）、教員は3名が出席し、1名がアドバイザーとして参加した。夜には懇親会があり、こちらも盛会であった。 |

## 【史学専攻】

|                            |   |
|----------------------------|---|
| 4月4日<br>東洋大学<br>白山キャンパス    | 白山史学会 新入生歓迎「歴史学への招待」を開催。<br>博士後期課程 中村祐也「日清戦争と民衆—歴史学への招待」  |
| 5月14日<br>東洋大学<br>白山キャンパス   | 白山史学会卒論発表会<br>博士前期課程 石塚碧「19世紀フランスにおけるファミ・ファタルーリ<br>アヌ・ド・プーギイを例に一」   |
| 5月22日<br>市川市男女共同参<br>画センター | 十六世紀史研究学会<br>博士後期課程 小池辰典「山内六角就綱の近江守護補任について」   |
| 6月25日<br>東洋大学<br>白山キャンパス   | 白山史学会第44回総会<br>博士後期課程 小林栄輝「唐後半期における対江南藩鎮政策—とくに浙<br>西を中心として—」  |
| 6月26日<br>国学院大学<br>渋谷キャンパス  | 国史学会大会<br>博士後期課程 上村正裕「平安時代の興福寺維摩会と藤原氏」  |
| 7月2日<br>東洋大学<br>白山キャンパス    | 東洋大学大学院 文学研究科史学専攻研究発表会<br>＜日本史専攻＞<br>1. 博士前期課程 上野雄也「平安時代における地方行政監察の研究」<br>2. 博士後期課程 上村正裕「奈良時代の近臣の行方—九世紀の葬司の<br>検討を手がかりに一」<br>3. 博士後期課程 小池辰典「鉤の陣における諸大名の参陣と足利義尚」<br>＜外国史専攻＞<br>1. 博士後期課程 加納哲夫「ヘロドトスの歴史叙述における予言の役<br>割」<br>2. 博士後期課程 中村祐也「河北俊弼死後の朝鮮情勢に対する議論—<br>新聞『日本』の言説に注目して—」<br>3. 博士後期課程 程楽「清末における存古学堂の開設について」 |
| 11月12日<br>駒澤大学<br>駒沢キャンパス  | 戦国史研究会例会<br>博士後期課程 小池辰典「鉤の陣再考—西軍大名の動向から—」   |

# 【教育学専攻】

|   |   |
|---|---|
| 1月30日（土）<br>13：00～15：00<br>8号館<br>8301教室および<br>8302教室 | <p>修士論文口述試験（博士前期課程修士論文提出者7名および主査・副査の教員13名）</p> <p>各修士論文提出者に対して、主査1名、副査2名の計3名で口述試験を実施し、その成果について評価を行った。</p> <p>また、口述試験終了後に、大学院を担当する教員全体で評価判定会議を行った。</p>   |
| 2月6日（火）<br>14：00～17：00<br>7号館<br>地下1階教室               | <p>修士論文成果報告会（博士前期課程在籍者6名、教員14名の計20名が参加）</p> <p>以下の修士論文提出者が各論文の成果と課題を報告し、質疑応答および議論が行われた。</p> <p>伊藤曜子「知的障害のある児童生徒に対する授業づくりの研究－体育科サーキット運動の指導を通して－」</p> <p>落合 豊「社会参画意識の育成を目指した公民科教育の研究」</p> <p>呉 迪「中国の子供の道德意識形成のあり方に関する研究」</p> <p>濱崎麻弥「病気による長期欠席の子供への教育支援－家庭学習に焦点を当てて－」</p> <p>宇佐美駿「全国学力・学習状況調査（算数）から見る教科書比較研究」</p> <p>遠藤 修「定時制高校の歴史的変遷と現代における役割」</p> |
| 7月30日（土）<br>14：00～16：00<br>第3会議室                      | <p>修士論文/博士論文中間報告会（博士前期課程在籍者2名、博士後期在籍者1名、教員10名の計13名が参加）</p> <p>太田侑毅「特別支援学校（知的障害）での理科教育におけるICTを活用した教育支援に関する研究」</p> <p>呉 蘇「中国と日本における小学校ゴミのリサイクル教材の比較に関する研究」</p> <p>国谷直己「『茨城県教育綱領』制定経緯の実相－不敬事件との関連をめぐって－」</p>   |

# 【英語コミュニケーション専攻】

|                          |   |
|--------------------------|---|
| 5月25日<br>白山校舎<br>8301教室  | 大学院・英語コミュニケーション専攻第一回研究発表会<br>博士前期課程2名、博士後期課程1名による、研究発表会が開催された。<br>教員4名、院生8名が参加した。質疑応答では活発な議論があった。 |
| 7月30日<br>白山校舎<br>6410教室  | 東洋大学英語コミュニケーション学会第8回大会・総会が開催された。<br>本専攻から、修了生1名、博士後期課程の1名が研究発表を行った。                               |
| 10月26日<br>白山校舎<br>8301教室 | 大学院・英語コミュニケーション専攻第二回研究発表会<br>博士前期課程4名による、研究発表会が開催された。教員5名、院生8名<br>が参加した。研究発表の内容について、活発な議論があった。    |

## 社会学研究科

### 【社会学専攻】

|   |   |
|---|---|
| 1月18日<br>18：15～20：30<br>8号館3階<br>8305教室 | 白山人類学研究会定例研究会<br>報告者：川上 崇（東洋大学アジア文化研究所）<br>題 目：ベトナム村落生活の持続と変化——葬送互助慣行の歴史的考察を通じて<br>出席者：院生博士前期7名、院生博士後期3名、教員6名、外部9名<br>計25名  |
| 5月16日<br>18：15～20：30<br>8号館3階<br>8305教室 | 白山人類学研究会定例研究会<br>報告者：小池まり子（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所<br>ジュニアフェロー）<br>題 目：バリ島の火葬儀礼の変容——新たな選択肢としての火葬場を事例として<br>出席者：院生博士前期6名、院生博士後期5名、教員6名、外部6名<br>計23名                                 |
| 6月20日<br>18：15～20：30<br>8号館3階<br>8305教室 | 白山人類学研究会定例研究会<br>報告者：佐久間香子（京都大学東南アジア研究所）<br>題 目：林産物交易が編み上げたボルネオの後背地社会：形成過程からの考察<br>出席者：院生博士前期5名、院生博士後期4名、教員5名、外部10名<br>計24名   |
| 7月11日<br>18：15～20：30<br>8号館3階<br>8305教室 | 白山人類学研究会定例研究会<br>報告者：Ling Sze Nancy Leung（東洋大学アジア文化研究所大型研究・研究支援員）<br>題 目：「国境を跨ぐ生活スタイル」とは——国際人口移動統計からのアプローチ：東洋大学井上円了記念研究助成大型研究調査対象国を中心に<br>出席者：院生博士前期5名、院生博士後期3名、教員6名、外部9名<br>計23名 |
| 10月24日<br>18：15～20：30                   | 白山人類学研究会定例研究会<br>報告者：下條尚志（京都大学東南アジア研究所 機関研究員）   |

|  |   |
|--|---|
| 8号館3階<br>8305教室                          | <p>題 目：ベトナムーカンボジア国境をめぐるローカルな政治—冷戦終結後メコンデルタの人々の越境移動—</p> <p>出席者：院生博士前期4名、院生博士後期3名、教員6名、外部8名<br/>計21名</p>   |
| 11月19日<br>13：00～17：30<br>8号館3階<br>8502教室 | <p>13：00～13：10 趣旨説明（間瀬朋子）</p> <p>13：10～13：50 発表（1）間瀬朋子（東洋大学）<br/>「消費現場の変容：ジョグジャカルタ特別州スレマン県の学生街における大学生の消費様式と“インフォーマル・セクター”の商売様式から」</p> <p>13：50～14：30 発表（2）合地幸子（東京外国語大学博士後期課程）<br/>「ジョグジャカルタ特別州の中間層にみる健康と消費：保健医療サービスの外側で」</p> <p>14：45～15：25 発表（3）森田良成（大阪大学大学院人間科学研究科・特任研究員）<br/>「携帯電話の普及と利用状況にみるインドネシアの地方農村部の現在：東ヌサ・トゥンガラ州西ティモールを事例に」</p> <p>15：25～16：05 発表（4）金子正徳（東洋大学アジア文化研究所客員研究員）<br/>「インドネシア共和国ランブン州の生活用品調査に基づくライフスタイルの変化」</p> <p>16：15～16：45 コメント 新井健一郎（亜細亜大学）</p> <p>16：45～17：30 ディスカッション</p> <p>出席者：院生博士前期3名、院生博士後期3名、教員5名、外部15名<br/>計26名</p> |
| 12月19日<br>8号館3階<br>8502教室                | <p>白山人類学研究会定例研究会</p> <p>報告者：須藤 護（龍谷大学名誉教授）</p> <p>題 目：「あるくみるきく」—宮本常一の観察と思考—</p> <p>出席者：院生博士前期4名、院生博士後期4名、教員5名、外部10名<br/>計23名</p>  |
| 7月23日<br>13：00～17：40<br>1号館7階<br>1705教室  | <p>平成28年度白山社会学会大会</p> <p>13：00 開会挨拶 総合司会 伊達康博（帝京大学）</p> <p>13：10～15：00 研究発表の部 司会 大倉健宏（麻布大学）<br/>柳井猛晶（東洋大学大学院社会学研究科博士後期課程）</p>   |



「広告主への分析視角——記事「広告主が『広告』主でなくなる日」からの考察」

保科俊（東洋大学大学院社会学研究科博士後期課程）

「誤報に関する一考察——誤報の要因抽出を中心として」

渡辺芳（東洋大学）・高橋奈佳（東洋大学）

「2000年代における野宿者の生活——首都圏A施設の利用状況から」

15：00～17：00 文学部社会学科開設70周年企画「東洋大学80年史を読みながら、卒業生に聞く」

大野正子（奥田道大先生と同期） 聞き手：松本誠一（東洋大学）；参加者

17：00～17：40 総会

出席者：発表者4、院生2、教員4、元院生10、元教員2、他8 計30名

## 【社会心理学専攻】

|                         |   |
|-------------------------|---|
| 1月8日<br>8301教室          | 博士前期課程1年修士論文中間報告会：博士前期課程1年7名が、研究の進捗状況について報告した。  |
| 1月22日<br>8301教室         | 博士後期課程博士論文中間報告会：博士後期課程学生3名が、博士論文の進捗状況について報告した。  |
| 1月28日～30日               | San Diego, CA で開催された第17回Society for Personality and Social Psychologyに、D1の金子迪大氏および倉矢匠氏、M1の坂井絵里香氏および沓澤岳氏が参加し、発表を行った。                 |
| 2月5日<br>スカイホール          | 修士論文発表会：修士論文を書き終えた5名の院生が、自分の研究内容について発表し、フロアと討議を行った。参加者約25名。   |
| 4月8日<br>8301教室          | 新入生（前期課程4名、後期課程1名）を含む大学院生全員と教員が集合し、心理学研究における倫理基準や倫理審査の手順、研究の心構えについて説明を行った。  |
| 4月22日<br>8301教室         | 博士前期課程1年研究構想発表会：博士前期課程1年4名が、それぞれの研究構想・研究計画について発表を行った。参加者約30名。   |
| 5月6日<br>5月13日<br>8301教室 | 博士前期課程2年修士論文中間報告会：博士前期課程2年7名が、それぞれの研究の進捗状況について報告した。参加者約30名。   |
| 6月3日<br>8301教室          | 本大学院の修了生で、大妻女子大学人間関係学部講師の本田周二先生に、キャリア指導の一環として、『大学教員として「働く」ことについて』をテーマにご講演をいただいた。参加者約30名。  |
| 6月17日<br>8301教室         | 博士後期課程博士論文中間報告会：D3の鷹阪龍太氏および陸英善氏が、それぞれの研究について発表を行った。参加者約30名。   |
| 7月1日<br>7月8日<br>8301教室  | 博士後期課程博士論文中間報告会：D2の池間愛梨氏、金子迪大氏、倉矢匠氏、およびD1の入山茂氏が、それぞれの研究について発表を行った。参加者約30名。  |
| 7月22日<br>8301教室         | 本学社会心理学専任教員で准教授の水口学先生に、ご自身の言語学研究に関するご講演をいただいた。参加者約30名。  |
| 7月24日～7月29日             | 横浜で開催された、第31回International Congress of Psychologyにおいて、D3の鷹阪龍太氏がテーマセッションを企画し、D2の金子迪大氏および倉矢匠氏、D3の陸英善氏が口頭発表を行った。また、金子迪大氏は別にポスター発表も行った。 |

|                            |  |
|----------------------------|--|
| 7月30日～8月3日                 | 名古屋で開催された第23回Congress of the International Association for Cross-Cultural Psychologyにおいて、D2の金子迪大氏が発表を行った。                                    |
| 9月30日<br>8301教室            | D2の新井田恵美氏が博士論文の中間報告を行った。また、D3の鷹阪龍太氏が、研究用のソフトであるInquisitとSurveyMonkeyの利用法の解説を行った。参加者約30名。   |
| 10月14日<br>8301教室           | 本大学院修了生の下田俊介先生に、「IPANATを用いた感情測定」と題するご講演をいただいた。参加者約30名。   |
| 10月28日<br>8301教室           | 東京大学人文社会系研究科助教の綿村英一郎先生に、「刑罰の心理学」と題するご講演をいただいた。参加者約30名。   |
| 11月11日<br>11月18日<br>8301教室 | 博士前期課程2年修士論文中間報告会：博士前期課程2年7名が、それぞれの研究の進捗状況について報告した。参加者約30名。  |
| 12月2日<br>8301教室            | 博士前期課程1年修士論文中間報告会：博士前期課程1年4名が、それぞれの研究の進捗状況について報告した。参加者約30名。  |
| 12月9日～12日                  | 研究協力協定を結んでいる韓国翰林大学（春川市）において、応用心理研究所との共同セミナーを実施した際に、D3の陸英善氏とM1の小越凌氏が同伴して参加し、それぞれの研究についてのポスター発表を行った。   |
| 12月16日<br>8301教室           | 研究協力協定を結んでいる韓国成均館大学の大学院生Ha-yeon Lee氏が、自身の研究について発表を行った。また、本学社会心理学科専任講師のMatthew Wickens先生に、「Work as a Survival Strategy」と題するご講演をいただいた。参加者約30名。 |

## 法学研究科

### 【私法学専攻】

|                                     |   |
|-------------------------------------|---|
| 1月18日<br>15：00～16：30<br>8204教室      | 外国人研究者による講演会<br>講演者：ミュンヘン大学名誉教授ゲルハルト・リース<br>テーマ：「ドイツにおける契約自由の原則の展開について」 |
| 2月2日<br>10：30～13：30<br>8303教室       | 修士論文口述審査  |
| 3月23日<br>13：20～14：00<br>8302教室      | 大学院学位記授与式<br>大学院生活等に関する修了生アンケート実施<br>修了生のネットワーク構築について情報収集               |
| 4月4日<br>15：30～16：30<br>8202教室       | 大学院新入生ガイダンス   |
| 6月14日<br>16：00～17：00<br>8号館7階特別会議室  | 第1回博士論文中間報告会  |
| 10月18日<br>16：00～17：00<br>8号館7階特別会議室 | メンタルヘルス講習会<br>講師：東京大学 高野明氏<br>テーマ：現代学生を理解と対応について<br>——ハラスメント防止のために——    |
| 11月8日～14日<br>各演習授業教室                | 平成28年度法学研究科授業相互聴講実施   |
| 11月15日<br>16：05～17：00<br>9号館2階第4会議室 | 平成28年度修士論文中間報告会<br>(平成28年度修了予定の修士課程2年生4名が報告を行い、参加教員がアドバイス等を行う。)         |
| 11月22日<br>16：30～17：30<br>8301教室     | 講演会<br>講演者：ILO駐日代表・田口晶子氏による講演会<br>テーマ：労働の未来——ILOのアプローチ——                |

|  |   |
|--|---|
| 12月5日・7日・<br>8日<br>12：10～13：00<br>8304教室・8202教<br>室・セミナー室7 | 大学院生活等に関する個別相談会<br>執行部3名が任意の希望学生と大学院生活について相談を受ける。 |
| 12月13日<br>16：00～16：30<br>8号館7階特別会議室                        | 博士（甲）論文提出者による公聴会                                  |
| 12月13日<br>16：30～17：15<br>8号館7階特別会議室                        | 平成28年度第2回博士論文中間報告会                                |
| 12月21日<br>16：30～17：30<br>8号館2階8206教室                       | 公務員コース説明会<br>学生2名が参加し、同コース主任が対応した。                |

## 【公法学専攻】

|  |   |
|--|---|
| 1月18日<br>15：00～16：30<br>8204                       | 外国人研究者による講演会<br>講演者：ミュンヘン大学名誉教授ゲルハルト・リース<br>テーマ：「ドイツにおける契約自由の原則の展開について」 |
| 2月2日<br>10：30～13：30<br>8303教室                      | 修士論文口述審査  |
| 3月23日<br>13：20～14：00<br>8302教室                     | 大学院学位記授与式<br>大学院生活等に関する修了生アンケート実施<br>修了生のネットワーク構築について情報収集               |
| 4月4日<br>15：30～16：30<br>8202教室                      | 大学院新入生ガイダンス   |
| 6月14日<br>16：00～17：00<br>8号館7階特別会議室                 | 第1回博士論文中間報告会  |
| 10月18日<br>16：00～17：00<br>8号館7階特別会議室                | メンタルヘルス講習会<br>講 師：東京大学 高野明氏<br>テーマ：現代学生の理解と対応について<br>——ハラスメント防止のために——   |
| 11月8日～14日<br>各演習授業教室                               | 平成28年度法学研究科授業相互聴講実施   |
| 11月15日<br>16：05～17：35<br>8号館7階特別会議室                | 平成28年度修士論文中間報告会<br>(平成28年度修了予定の修士課程2年生7名が報告を行い、参加教員がアドバイス等を行う。)         |
| 11月22日<br>16：30～17：30<br>8301教室                    | 講演会<br>講演者：ILO駐日代表・田口晶子氏による講演会<br>テーマ：労働の未来——ILOのアプローチ——                |
| 12月5日・7日・8日<br>12：10～13：00<br>8304教室・8202教室・セミナー室7 | 大学院生活等に関する個別相談会<br>執行部3名が任意の希望学生と大学院生活について相談を受ける。                       |

|                                      |                                    |
|--------------------------------------|------------------------------------|
| 12月13日<br>16：00～16：30<br>8号館7階特別会議室  | 博士（甲）論文提出者による公聴会                   |
| 12月13日<br>16：30～17：15<br>8号館7階特別会議室  | 平成28年度第2回博士論文中間報告会                 |
| 12月21日<br>16：30～17：30<br>8号館2階8206教室 | 公務員コース説明会<br>学生2名が参加し、同コース主任が対応した。 |

## 経営学研究科

### 【経営学専攻】

|   |  |
|---|--|
| 1月28日<br>9：00～12：00<br>東洋大学<br>白山キャンパス<br>8号館8303教室       | 平成27年度経営学専攻修士論文口述試験を実施し、受験生は6名であった。  |
| 1月30日<br>13：00～17：00<br>東洋大学<br>白山キャンパス<br>2号館16階スカイホール   | 経営力創成研究センター 2015年度第3回シンポジウム。テーマは「スモールビジネスの創造とマネジメント変革」であった。基調講演は、小國義之氏（有限会社あずさ監査法人事業再生支援室長・パートナー・公認会計士）「スモールビジネスの創造～ビジネスを必ず成功に導く原理原則について～」、中嶋修氏（板橋区企業活性化センター長）「どんなに厳しい中小企業でも、きちんとした指導が入れば劇的に経営は改善する」であった。パネルディカッションは、上記の講演者に井上善海氏（東洋大学経営学部教授・センター長）を加えて、「スモールビジネスの創造とマネジメント変革」というテーマで活発な議論を行った。参加者60名                            |
| 7月9日<br>13：00～17：00<br>東洋大学<br>白山キャンパス<br>8号館125<br>記念ホール | 経営力創成研究センター・GESIC2016年度第1回シンポジウム。テーマは「スモールビジネスの事業継承と発展」であった。基調講演は、尾堤宏氏（有限会社おづつみ園代表取締役社長）「これからの老舗お茶の経営の在り方～お茶屋はなくなるけどお茶はなくなる～」、小野史人氏（株式会社ライブリッツ・アンド・カンパニー代表取締役社長・中小企業診断士）「老舗企業の経営改善と再成長支援」であった。パネルディカッションは、上記の講演者に幸田浩文氏（東洋大学経営学部教授・センター研究員）を加えて、小野瀬拡氏（駒沢大学経営学部教授・センター客員研究員）のコーディネーターのもと「スモールビジネスの事業継続性と発展」というテーマで活発な議論を行った。参加者60名 |
| 8月3日<br>9：10～13：40<br>東洋大学<br>白山キャンパス<br>8号館8301教室        | 平成28年度経営学専攻修士論文の第1回中間報告会を実施し、報告の院生は9名であった。   |



|   |   |
|---|---|
| 9月6日～10日<br>海外調査<br>インドネシアジャ<br>カルタ周辺                       | インドネシアの日系企業の経営問題調査を目的に訪問調査を行った。9月7日は、「インドネシア味の素本社」並びに「公設市場」での見学等を行った。その後、神谷社長、松本副社長、梅田副社長との質疑を行った。内容としては、日本企業のアジア地域での経営の現状、将来の展望とアジアでの人材育成、インドネシアでのビジネスを進める上で特有な課題などについて調査した。7日は、双日インドネシア社を訪問し、グリーンランド・インターナショナル工業団地で産業振興と都市計画の融合した試みについて調査した。そして、8日はJETROジャカルタでインドネシア経済・社会・文化といった視点から、日本企業の課題について調査を行った。   |
| 10月19日<br>9：10～13：40<br>東洋大学<br>白山キャンパス<br>8号館8301教室        | 平成28年度経営学専攻修士論文の第2回中間報告会を実施し、報告の院生は10名であった。   |
| 10月22日<br>13：00～17：00<br>東洋大学<br>白山キャンパス<br>8号館125<br>記念ホール | 経営力創成研究センター 2016年度国際シンポジウム。テーマは「日タイ経済交流の現状と課題」であった。基調講演は、WADEECHAROEN, Wanida氏（泰日工業大学経営学部講師）「Why Do Japanese Firms Invest in Thailand?」、INTARAKUMUNERD, Patarapong氏（政策研究大学院大学教授）「Technological Capability Development and Innovation in Thailand after Financial Crisis：The Cases of Electronics, Automotive and Frozen Seafood Industries」、原啓氏「A Challenge of Smart Green Innovation Park in Thailand」であった。ディカッションは、上記の講演者によって、質疑応答を含め「日タイ経済交流の現状と課題」というテーマで活発な議論を行った。参加者50名 |
| 11月2日～5日<br>タイ日工業大学、<br>大学院進学相談<br>会、タイ・バンコ<br>ク            | 泰日工業大学（タイ・バンコック）で、学生募集のための大学院進学相談会を実施した。また、三菱電機系列の現地日系企業で修了生に求められる高度専門知識や語学力についてヒアリング調査を行った。  |

|  |   |
|--|---|
| <p>11月12日<br/>13:40～17:30<br/>東洋大学<br/>白山キャンパス<br/>8号館8301教室</p> | <p>明治学院大学大学院・東洋大学大学院2016年度合同研究発表会。西澤昭夫氏（東洋大学大学院経営学研究科長）の開会挨拶の後、4名の研究報告があった。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 黄 天純宇氏（明治学院大学大学院博士後期課程）「中国企業の海外事業戦略の事例研究」</li> <li>2. 陳 塵氏（東洋大学大学院博士後期課程発表）「中国上場企業における執行役員のインセンティブ報酬の問題点」</li> <li>3. 田中 克昌氏（東洋大学大学院博士後期課程）「ユーザーによる市場支配とイノベーション・マネジメント」</li> <li>4. 角谷 茉里氏（明治学院大学大学院博士後期課程）「化粧品購買における消費者の情報選択を左右する諸要因の影響力について」</li> </ol> <p>発表の後、懇親の場を設けて交流がなされた。参加者は教員5名、院生12名。</p> |
| <p>11月19日東洋大学<br/>白山キャンパス<br/>2号館16階スカイホール</p>                   | <p>経営力創成研究センター・GESIC2016年度第2回シンポジウム。テーマは「スモールビジネス・マネジメントの創造と国際的起業家育成」であった。基調講演は、黒石 健太郎氏（株式会社ウィルフ代表取締役社長）「East Venturesやサムライインキュベートから出資を受ける起業家が、生まれてくる。」休憩の後、柿崎洋一氏（東洋大学経営学部教授・センター研究員）、董 晶輝氏（東洋大学経営学部教授・センター研究員）の「インドネシア進出日本企業の現状と課題」についての調査報告に続いて、小椋康宏氏（東洋大学名誉教授、センター顧問）の司会でシンポジウムが行われ、活発な議論がなされた。参加者40名</p>  |

## 【ビジネス・会計ファイナンス専攻】

|  |   |
|--|---|
| 1月21日<br>18：15～19：45<br>東洋大学<br>白山キャンパス<br>8号館8302教室 | 平成27年度ビジネス・会計ファイナンス専攻（会計ファイナンス専門家養成コース）修士論文口述試験を実施し、受験生は5名であった。                         |
| 1月23日<br>10：00～17：00<br>東洋大学<br>白山キャンパス<br>8号館8302教室 | 平成27年度ビジネス・会計ファイナンス専攻（中小企業診断士登録養成コース）修士論文・特定課題研究論文口述試験を実施し、受験生は15名であった。                 |
| 3月23日<br>13：20～14：00<br>東洋大学<br>白山キャンパス<br>8号館8204教室 | 平成27年度（3月修了）学位記授与式が行われ、ビジネス・会計ファイナンス専攻博士前期課程20名に学位記が授与された。                              |
| 7月28日<br>18：15～19：45<br>東洋大学<br>白山キャンパス<br>8号館8305教室 | 平成28年度ビジネス・会計ファイナンス専攻（会計ファイナンス専門家養成コース）修士論文第1回中間報告会が開催され、2名が発表した。                       |
| 7月30日<br>10：00～16：00<br>東洋大学<br>白山キャンパス<br>8号館8301教室 | 平成28年度ビジネス・会計ファイナンス専攻（企業家・経営幹部養成コース、中小企業診断士登録養成コース）修士論文・特定課題研究論文第1回中間報告会が開催され、17名が発表した。 |
| 11月8日<br>10：00～16：00<br>東洋大学<br>白山キャンパス              | 8号館8502教室 平成28年度ビジネス・会計ファイナンス専攻（中小企業診断士登録養成コース）修士論文・特定課題研究論文第2回中間報告会が開催され、17名が発表した。     |

|   |  |
|---|--|
| 11月17日<br>18：15～19：45<br>東洋大学<br>白山キャンパス<br>8号館8301教室 | 平成28年度ビジネス・会計ファイナンス専攻（会計ファイナンス専門家養成コース）修士論文第2回中間報告会が開催され、2名が発表した。  |
| 11月12日<br>13：40～17：30<br>東洋大学<br>白山キャンパス<br>8号館8301教室 | 東洋大学大学院・明治学院大学大学院合同研究発表会を開催し、明治学院大学2名、東洋大学2名の大学院生の発表があり、発表内容に関する活発な質疑応答や意見交換が行われた。東洋大学側発表者の内1名は、ビジネス・会計ファイナンス専攻博士後期課程院生であった。 |

### 【マーケティング専攻】

|   |  |
|---|--|
| 1月28日（木）<br>10：00～14：40<br>セミナー室7<br>セミナー室8 | 口述試験を行った。博士前期課程2年生11名、教員11名が参加した。  |
| 4月2日（土）<br>15：00～16：00<br>8301教室            | 博士前期課程の新入生5名に向けたガイダンスを演習担当教員6名全員で行った。  |
| 6月30日（木）<br>14：30～15：15<br>3301教室(PC教室)     | 博士前期課程2年生4名が、大学院生が研究倫理について学ぶためのコース(CITI JAPAN eラーニング)をPC室で受講し、専攻長の指導のもと、全員がコース修了した。  |
| 8月3日（水）<br>10：30～12：30<br>8502教室            | 修士論文中間報告会を実施し、博士前期課程2年生4名が報告を行った。博士前期課程1年生5名、教員8名が参加した。厳しい質問が出され、夏季休暇中の課題が明確になったものと思われる。   |
| 10月19日（水）<br>15：30～17：30<br>8502教室          | 修士論文中間報告会第2回目を実施し、博士前期課程2年生4名が報告した。1年生4名、教員5名が参加した。本専攻はこれまで中間報告会を1回のみ実施し、年2回実施するのは今回が初めてであったが、報告者各々の、1回目の中間報告時と比べた論文の進展あるいは1回目に指摘された問題点の取り組みに差があることが明白になったことから、今後も年2度の中間報告会の実施が有意義であろうと思われる。 |

## 経済学研究科

### 【経済学専攻】

|   |  |
|---|--|
| 2月2日（火）<br>13：00～15：30<br>白山キャンパス<br>5号館501教室 | 2015年度修士論文口述試験。論文提出者9名（王 賽氏、余 洪燕氏、グエン テイハ氏、黄 晨氏、秦 ブン氏、管 明麗氏、石 磊氏、賈 亜男氏、相賀 照貴氏）について、各学生による報告の後、試験官教員より質問を行う。評価、及び研究科委員会の審議を経て、これら9名の修士論文を合格とした。   |
| 6月16日（木）<br>16：00～18：10<br>白山キャンパス<br>8301教室  | 論文発表会（第1回）（M2の修士論文中間報告、質疑応答含め各40分）、計約2時間<br>(1) 佐藤 愼悟（M2）「東日本旅客鉄道株式会社の企業価値向上～東日本旅客鉄道フィナンシャルグループ株式会社の設立構想の可否～」<br>(2) 高橋 湧大（M2）「非伝統的金融政策の比較」<br>教員6名、学生14名が参加し、活発な質疑応答が行われた。                |
| 6月23日（木）<br>15：15～18：10<br>白山キャンパス<br>8301教室  | 論文発表会（第2回）（M2の修士論文中間報告、質疑応答含め各40分）、計3時間強<br>(1) 松岡 亮祐（M2）「農水産品における貿易自由化の影響分析」<br>(2) 李 森奇（M2）「中国国有企業の改革～国有鉄道を例として～」<br>(3) 李 ロ（M2）「中国の医療制度改革～公立病院を中心に～」<br>教員7名、学生15名が参加し、活発な質疑応答が行われた。    |
| 6月30日（木）<br>16：00～17：25<br>白山キャンパス<br>8301教室  | 論文発表会（第3回）（D1の博士論文研究計画報告、質疑応答含め各40分）、計約1時間半<br>(1) 黄 晨（D1）「中国の中小企業金融の変革課題と金融改革～政府系金融機関の改革と民営銀行の育成～」<br>(2) 水村 陽一（D1）「規制改革による産業活性化と革新-活動～ドイツ手工業分野 規制改革の全容～」<br>教員6名、学生14名が参加し、活発な質疑応答が行われた。 |
| 10月13日（木）<br>16：00～18：10<br>白山キャンパス<br>8301教室 | 論文発表会（第4回）（M1の修士論文研究計画報告、質疑応答含め各40分）、計2時間半<br>(1) 姜 思思（M1）「中国の雇用保険の変革課題」<br>(2) 譚 静（M1）「中国の民間医療保険発展の為の課題」<br>(3) 佐藤 賢佑（M1）「少子高齢化対策」<br>教員7名、学生15名が参加し、活発な質疑応答が行われた。                        |

|   |  |
|---|--|
| 10月20日（木）<br>16：00～18：10<br>白山キャンパス<br>8301教室 | 論文発表会（第5回）（M1の修士論文研究計画報告、質疑応答含め各40分）、計2時間半<br><br>(1) 倉持 悠佑（M1）「グローバル化の日本経済への影響」<br>(2) 伯 文婷（M1）「為替レートと株価の関係」<br>(3) 孔 徳毅（M1）「人民元の基軸通貨化の展望」<br><br>教員7名、学生16名が参加し、活発な質疑応答が行われた。                            |
| 10月27日（木）<br>15：15～18：10<br>白山キャンパス<br>8301教室 | 論文発表会（第6回）（M1の修士論文研究計画報告、質疑応答含め各40分）、計3時間強<br><br>(1) 丁 莉（M1）「戦後の日本と中国の経済交流史」<br>(2) 孫 舫（M1）「住宅政策についての国際比較」<br>(3) 高 翔（M1）「中国の自動車産業と産業組織」<br>(4) 郝 怡瑶（M1）「中国沿海地域の産業移転」<br><br>教員8名、学生15名が参加し、活発な質疑応答が行われた。 |
| 12月8日（木）<br>16：00～18：10<br>白山キャンパス<br>8301教室  | 修士論文報告会（＜M2の修士論文最終報告会、質疑応答含め各45分＞、約2時間<br><br>(1) 佐藤 慎悟（M2）「金融機関の業務としてのポートフォリオ管理と金融リスク」<br>(2) 高橋 湧大（M2）「非伝統的金融政策の比較」<br>(3) 松岡 亮祐（M2）「農水産品における貿易自由化の影響分析」<br><br>教員7名、学生15名が参加し、活発な質疑応答が行われた。             |
| 12月19日（月）<br>16：30～18：10<br>白山キャンパス<br>8203教室 | 外部講師による特別講義を開催、1時間半<br><br>講師：拓殖大学国際学部教授 杜進（ト シン）氏<br>テーマ：「日本の経験から見た中国経済の課題」<br><br>教員1名、学生7名が参加し、活発な質疑応答が行われた。  |

## 【公民連携専攻】

|                          |   |
|--------------------------|---|
| 11月、12月<br>大手町サテライト      | <p>連続トーク</p> <p>第1回「アメリカ人はなぜトランプを選んだのか、今後の世界、日本は」<br/>11月30日サム田渕教授</p> <p>第2回「日本版カジノは実現するか」12月13日 美原 融 東洋大学客員教授</p> <p>第3回「黒田バズーカは有効だったか グローバル市場における金融政策の役割と限界」12月21日 中北 徹 東洋大学教授</p> <p>各回30～40名が参加 本年は最新的话题を取り上げるシリーズ</p> |
| 10月25日<br>大手町サンケイブ<br>ラザ | <p>第11回国際PPPフォーラム</p> <p>英国、フランスのPPP政策担当官が参加し各国の政策を紹介。米国はビデオ参加。</p> <p>約200名が参加</p>   |
| 10月25日<br>大手町サンケイブ<br>ラザ | <p>2016年度省インフラ研究会セミナー</p> <p>12社・機関が自社の省インフラの取り組みを紹介する</p> <p>自治体関係者等約100名が参加</p>   |



## 国際地域学研究科

### 【国際地域学専攻】

|   |   |
|---|---|
| 1月10日<br>東洋大学・白山<br>キャンパス                               | 日本都市計画学会・アジア都市計画研究分科会 第12回アジア都市計画研究発表会 (12th ACP) にて論文発表を行った。演題 “A Study on the Policy Framework of Tourism and Poverty Reduction among Rural Communities in Tanzania” (博士前期課程 Joyce Emmanuel Ndambala)、“A Study on Policy Framework of Community-based Tourism Initiatives in South Africa” (博士前期課程 Lineo Manosa)、“A Study on the Institutional and Policy Framework regarding Local Public Service Agencies (LPSA) at Primary Health Care (Puskesmas)” (博士前期課程 Dwi Sulistiyowati) |
| 1月10日<br>Conference<br>Presentation<br>東洋大学             | “Children’s Literature as an Educational Tool for Community Development in Bulgaria” というタイトルで発表 (博士後期課程 Ivan Botev) 12th Conference of Asian City Planning, Toyo University.  |
| 3月18日<br>Guest Lecture<br>米国 ジョージア<br>州立大学              | “Contemporary Developments and Trends of Education in Japan” というタイトルで発表 (博士後期課程 Ivan Botev) . Lecture Series. Invited Speaker. College of Education, University of Georgia.   |
| 3月19日<br>Conference<br>Presentation<br>米国 ジョージア<br>州立大学 | “Exploring the Potential of Picturebooks in Community Development: Nurturing Sense of Belonging in Elementary School Students in Bulgaria” というタイトルで発表 (博士後期課程 Ivan Botev) . 47th Annual Georgia Children’s Literature Conference, University of Georgia.  |
| 6月13日<br>東京<br>JICA市ヶ谷ビル                                | 土木計画学研究委員会第79回ワンデイセミナーにて、Identifying determinants of the intentions and the choices of mass rapid transit use in Ho Chi Minh Cityというタイトルで発表 (博士後期課程 Hoang Le Quan)  |
| 7月10日～15日<br>中国、上海<br>同済大学                              | 14th World Conference on Transport Researchにて、Analysing behavioural intentions in new residential developments of motorcycle dependent cities: A case of Ho Chi Minh City, Vietnam というタイトルで発表 (博士後期課程 Hoang Le Quan)  |

|   |  |
|---|--|
| 8月8日～12日<br>インドネシア・<br>ガジャマダ大学          | IASUR Student Workshop 2016 on Asian Approach to Urban Regeneration in Yogyakarta, Indonesiaに参加し、ジョグジャカルタ市クラピャック地区のまちづくりに関する発表を行った。(博士前期課程 Ole Rumpe Lekakeny, Wedu Moroka, Dwi Sulistiyowati) |
| 8月30日～9月2日<br>ハワイ・ホノルル<br>ヒルトンハワイアンビレッジ | Civil Engineering Conference in the Asian Region (CESAR7)にて「Role and Possibilities of PPP for Regional Development in Asian Countries」というタイトルで発表 (博士後期課程 加藤聡)                                  |

【国際観光学専攻】

|             |  |
|-------------|--|
| 9月30日<br>出版 | 『環境と社会経済』学文社   |
|             | 古屋 秀樹・劉 瑜娟：潜在クラス分析を用いた 訪日外国人旅行者の訪問パターン分析、土木学会論文集D3（土木計画学）、Vol.72, No.5（CD-ROM）<br>※劉さんの修士論文を投稿したものです。  |
|             | ポッ・ソヴァンナ、古屋秀樹：カンボジア・アンコール遺跡群の来訪者行動に関する研究、日本観光研究学会第31回全国大会研究発表論文集（CD-ROM）、2016<br>※ポッ・ソヴァンナさん：博士前期課程在学中 |

## 福祉社会デザイン研究科

### 【社会福祉学専攻】

|                   |   |
|-------------------|---|
| 1月28日<br>8202     | 平成27年度第2回社会福祉学専攻中間報告会 報告者7名 参加者25名  |
| 3月11日<br>スカイホール   | 東洋大学福祉社会開発研究センターシンポジウム<br>「社会福祉研究と実践をつなぐ『見える化』『見せる化』の課題」<br>参加者85名            |
| 4月2日<br>8502      | 新入生ガイダンス 新入生8名 教員5名   |
| 6月19日<br>125記念ホール | 東洋大学福祉社会開発研究センター障害ユニットシンポジウム<br>「成年後見と自己決定—成年後見促進法付帯決議をめぐって—」<br>参加者100名      |
| 7月28日<br>8301     | 平成28年度第1回社会福祉学専攻中間報告会 報告者15名 参加者35名   |
| 7月30日<br>125記念ホール | 東洋大学大学院社会福祉学専攻・福祉社会開発研究センター共催シンポジウム<br>「東アジアにおける権利擁護と地域支援」<br>参加者50名          |
| 7月31日<br>125記念ホール | 第12回東洋大学社会福祉学会（社会福祉学専攻の学内学会）<br>大会テーマ：「女性のキャリアと社会保障—東洋大学男女共学100周年—」<br>参加者85名 |
| 9月17日<br>1307     | 2016年度福祉社会デザイン研究科合同研究発表会、新入生歓迎会、懇親会<br>発表者4名、教員15名、院生20名                      |
| 9月25日<br>125記念ホール | 東洋大学福祉社会開発研究センター 2016年度前期シンポジウム<br>「緩やかにつながり、支え合う福祉社会を目指して」<br>参加者45名         |
| 12月3日<br>1102     | 東洋大学福祉社会開発研究センター高齢ユニットシンポジウム<br>「高齢者の孤立と自立支援」<br>参加者50名                       |

【福祉社会システム専攻】

|  |   |
|--|---|
| 1月29日<br>白山キャンパス<br>セミナー室8   | 修士論文口述試験の実施。1名30分、口述試験を行った。(修士論文提出者3名)(教員8名)  |
| 3月23日<br>武道館<br>白山キャンパス<br>6B14  | 午前中：卒業式      午後：学位記授与式がおこなわれた。(修了生2名)   |
| 4月2日<br>白山キャンパス  | 午後：大学院新入生ガイダンスの実施（新入生9名)(教員2名)  |
| 5月21日～6月18日<br>(全5回)<br>白山キャンパス<br>11101教室                                 | エクステンション講座B<「社会に生きる」をガクモンする－東洋大学福祉社会システム専攻夜間大学院進学支援講座－><br>講師として教員6名、修了生1名が講座を担当。受講生（21名）。受講生は地域の方、社会人のかたなど大学院での学び直しに関心の高いシニア世代と介護など家族福祉を担う世代が中心。 |
| 7月26日<br>白山キャンパス<br>第一会議室  | 修士論文口述試験の実施。1人30分で口述試験を行った。(修士論文提出者2名)(教員7名)  |
| 9月17日<br>白山キャンパス   | 学位記授与式がおこなわれた。(修了生2名)   |
| 9月17日<br>合同発表会1307教室<br>13：30～18：00<br>新入生歓迎会・懇親会<br>スカイホール<br>18：00～20：00 | 2016年度福祉社会デザイン研究科合同研究発表会、新入生歓迎会・懇親会を開催。<br>福祉社会システム専攻では、修了生の鶴田明子氏が、「『介助者手足論』は何を問うたのか ―『青い芝の会』の運動より―」の報告をおこなう。<br>新修了生の紹介、情報交換、交流会を開催。             |

## 【ヒューマンデザイン専攻】

|   |   |
|---|---|
| 1月20日（水）<br>16：00～17：30<br>朝霞校舎大学院<br>演習室 | 子ども支援学コース修士論文口述試験が行われた。修士論文提出者3名が発表し、その後、教員9名による口頭試問が行われた。  |
| 1月27日（水）<br>16：00～17：00<br>朝霞校舎大学院<br>演習室 | 高齢者・障害者支援学コース修士論文口述試験が行われた。修士論文提出者3名が発表し、教員5名との質疑応答が行われた。   |
| 2月2日（火）<br>16：30～20：30<br>朝霞校舎大学院<br>演習室  | 第3回健康デザイン学コース合同指導会（博士前期・後期課程）および修士論文口述試験開催。<br>博士後期課程院生1名、博士前期課程院生10名（うち口述試験対象者3名）、教員10名が参加。<br>合同指導は博士後期課程院生20分・博士前期課程院生15分、口述試験は20分で行われた。   |
| 2月17日（水）<br>10：00～12：00<br>朝霞校舎大学院<br>演習室 | 子ども支援学コース修士論文研究報告会が開催され、修了生3名が研究発表を行った。併せて、博士前期課程1年生3名の研究途中経過報告を行った。専任教員9名、非常勤講師1名と学生とで、活発な質疑応答が行われた。   |
| 2月23日（火）<br>13：20～18：00<br>朝霞校舎大学院<br>演習室 | 高齢者・障害者支援学コース秋学期合同研究指導会を開催。博士前期課程院生5名、博士後期課程院生6名、専任教員5名が参加し、質疑応答が行われた。  |
| 3月11日（金）<br>青山学院大学                        | 日本幼少児健康教育学会第34回大会【春季：青山大会】において、「マルチツールナイフを用いた保育実践の試みⅠ～Ⅲ」の3つの研究発表を行った。子ども支援学コース博士前期課程1年の西澤志穂は全ての研究発表に関わり、その内、一演題は筆頭発表を行った。また、西澤筆頭の研究発表の共同研究者として、同コース博士前期課程1年の朱トウも連名で参画した。この一連の研究発表は、福祉現場と大学との協同性と継続性が評価され、学会賞を授与された。 |

|   |  |
|---|--|
| 3月25日（金）<br>13：00～17：00<br>白山校舎125記念<br>ホール | 福祉社会開発研究センターこどもユニット主催の講演「福祉領域で役立つ子どもへの司法面接～出来事を聞くための面接法～（演者：北海道大学大学院大学教授 仲 真紀子先生）」に、子ども支援学コース博士前期課程院生および博士後期課程院生が参加した。講演テーマである司法面接の手法は、司法の場面だけではなく、子どもからの聞き取りを行おうとする者は必ず身につけておくべき極めて重要なものである。実技時間も入れての講演となり、有意義であった。   |
| 4月2日（土）<br>11：30～13：00<br>朝霞校舎大学院<br>演習室    | 本専攻新入生へ各コース別ガイダンスを行った。コース毎の新入生数は、子ども支援学コースは博士前期課程2名・博士後期課程3名、高齢者・障害者支援学コースは博士前期課程4名・博士後期課程4名、健康デザイン学コースは博士前期課程3名・博士後期課程2名であった。   |
| 7月16日（土）～<br>7月18日（月）<br>東洋大学鴨川セミ<br>ナーハウス  | 「東日本大震災子ども支援活動サマーレスパイトデイズ（主催：森田明美教授）」への学生参加。<br>福島県で被災した、ひとり親家庭の子どもたちや保護者の方にリフレッシュしてもらうことを目的に、森田明美教授、協力教員杉田記代子教授、NPO法人「しんぐるまざあず・ふぉーむ福島」が共同で、セミナーハウスにて2泊3日のレスパイト企画を開催した。本専攻からは、子ども支援学コース博士後期課程院生・博士前期課程院生が3名参加し、学部生とともに、被災後の多面的課題を持つ親や子どもと生活を共にしながら寄り添い支えることを、実体験を通して学んだ。 |
| 7月20日（水）<br>16：00～20：00<br>朝霞校舎大学院<br>演習室   | 第1回健康デザイン学コース合同指導会および修士論文口述試験開催。<br>博士前期課程1年生3名、博士前期課程2年生6名（うち口述試験対象者1名）、博士後期課程院生3名が参加し、合同研究指導および博士前期課程の口述試験を行った。  |
| 7月27日（水）<br>16：00～17：30<br>朝霞校舎大学院<br>演習室   | 子ども支援学コース修士論文提出予定者3名による中間研究発表が行われた。教員8名が参加し、質疑応答が行われた。   |
| 7月30日（土）<br>13：00～16：00<br>板倉校舎             | 第8回東洋大学川越・朝霞・板倉キャンパス研究発表会への学生参加。<br>例年、板倉・川越・朝霞の3キャンパスで大学院学生・教員の研究発表会を行っている。今回、本専攻からは健康デザイン学コース博士前期課程院生3名、博士後期課程院生1名が参加し、研究発表を行った。   |



|   |   |
|---|---|
| 8月1日（月）<br>朝霞校舎大学院<br>演習室                             | 高齢者・障害者支援学コース春学期合同研究指導会を開催。博士前期課程院生9名、博士後期課程院生6名、専任教員7名が参加し、質疑応答が行われた。なお、当日は引き続き、博士後期課程の中尾文香院生の博士論文公聴会が行われ、研究科長と関係教員が参加し、質疑応答が行われた。   |
| 8月26日（金）<br>15:00～27日（土）<br>12:00<br>東洋大学熱海研修<br>センター | 子ども支援学コース博士後期課程合同指導会開催。<br>大学院生10名（休学者を含む博士後期課程院生7名、博士前期課程院生3名）、博士後期課程指導担当教員3名、聴講生1名、修了生等による合宿が開催され、博士後期課程院生による研究発表と、質疑応答が行われた。博士後期課程在学学生と修了生、教員とで活発な研究討議が行われ、有意義であった。また、今年は博士前期課程院生を参加させたが、研究活動への動機付けとなる効果が得られた。   |
| 9月17日（土）<br>15:00～17:00<br>白山校舎講義棟                    | 白山キャンパスにおいて福祉社会デザイン研究科合同研究発表会を開催。<br>ヒューマンデザイン専攻高齢者・障害者支援学コース博士前期課程2年生の長縄洋司院生が研究報告を行った。   |
| 11月20日（日）<br>白山キャンパス<br>8305教室                        | 野田正人先生（立命館大学教授／中国蘇州大学兼職（客員）教授）特別講義「日本と中国の児童福祉」を開催した。近年、子ども支援学コースに中国からの留学生が増えていることから、この特別講義を企画したものである。出席者は子ども支援学コース博士前期課程院生3名、博士後期課程院生1名、福祉社会システム専攻博士後期課程院生1名の計5名（いずれも中国人留学生）であった。各院生からの自己紹介と研究テーマ紹介の後、野田先生から中国における農村留守児童問題の現状や日本と中国の児童福祉比較研究をする上での留意点等について、講義していただいた。 |
| 12月14日（水）<br>15:00～18:00<br>朝霞校舎大学院<br>演習室            | 第2回健康デザイン学コース合同指導会開催。<br>博士後期課程院生3名および博士前期課程1年生の合同研究指導を行った。   |



## 【人間環境デザイン専攻】

|  |   |
|--|---|
| 平成28年度春学期<br>イズミヤコーヒー<br>スタンド（埼玉県<br>志木市）          | <p>大学院の設計演習課題として、志木市に残る近代和風建築の一つである旧高須醤油醸造の工場及び倉庫を対象とした再生計画を立案させ、その計画案の講評会及び作品展示会を、同工場跡の一画にある、イズミヤコーヒースタンド（旧高須醤油醸造工場麹室）にて開催した。</p> <p>実現性の乏しい学生の計画案ではあったが、学生にとっては、具体的な事例を考えるべき好機となり、そうした作品が、所有者に好感を持って受け入れられたことが、彼らの成長の契機となった。大学院生（博士前期課程）4名参加。</p> |
| 平成28年度 現地<br>にて四回の打ち合<br>わせおよび実施活<br>動。<br>青森県鯉ヶ沢町 | <p>域学連携事業の活動として4年度目となった本年度は、バス停（停留所としてのコミュニティ施設）の制作に関わっている。6月、8月に案の打ち合わせ、12月に第一回施工、3月に完成工事を行う。町並みに特徴的な出し桁の意匠構成を踏襲した木造のデザインによる12㎡の本建築の制作である。大学院生（博士前期課程）4名参加。</p>  |
| 8月6日（土）<br>日本福祉のまちづ<br>くり学会第19回全<br>国大会(函館大会)      | <p>国内学会口頭発表</p> <p>「高速道路休憩施設の多機能トイレの利用実態分析に関する研究」、軍記伸一（博士後期課程2年）</p> <p>「オストメイトの方が使用するトイレ設備の利用実態調査」、熊澤宏夫（博士後期課程2年）</p> <p>「高齢者・障害者の引戸における出入り動作の研究」、高橋未樹子（博士後期課程1年）</p>  |
| 9月21日（水）<br>（掲載決定日）<br>日本建築学会                      | <p>地方自治体における建築物のバリアフリー化のための委任条例と自主条例の運用に関する研究、日本建築学会計画系論文集 2017年1月 第82巻 第731号</p> <p>岩浦厚信（博士後期課程3年）</p>   |
| 9月30日（金）<br>13：00～14：30<br>朝霞キャンパス<br>講307教室       | <p>ローマ大学教授Claudia Mattogno先生を短期海外教授招聘制度によってお招きし、「都市ローマの歴史」について講義をしていただいた。古代から現代までのローマの都市的物理的な変遷を語っていただき、特に現代のローマは緑地エリアの重要性を認識した都市計画が進行しているとの指摘があった。</p> <p>参加者：学部3・4年生60名程度、大学院生（博士前期課程）：8名</p>   |

|   |   |
|---|---|
| 10月30日（日）<br>白山キャンパス                                | くらしの足をみんなで考える全国フォーラム2016において、大学院の講義「生活支援ロボット工学特論」内で行った階段昇降機の改良に関する成果について、渡邊彩子（博士前期課程1年）が「可搬型階段昇降機の改良について」と題するポスター発表およびデモを行った。可搬型階段昇降機、スカラモビルを使用する際に、階段の段鼻に対して車輪が平行に位置していることが昇降機下部をのぞき込まなくとも確認することができる表示器を、操作ハンドル部に付加した。   |
| 11月1日（火）<br>15：30～17：00<br>朝霞キャンパス人間環境デザイン学科実験工房棟1階 | スウェーデン王立工科大学准教授Erik Stenberg氏を招聘し、「スウェーデンにおける集合住宅地の変容と再生－テンスタにおける環境デザインを通じた団地再生活動」と題して、Stenberg氏が建築家として再生に関与している首都ストックホルム・テンスタ地区の状況をご講演いただいた。福祉施策との連動に伴い、都市部で数多くの集合住宅団地を供給してきたこの国において、団地住民の所得格差が生じており、その解消に向けた数々の建築的試みが紹介された。<br>参加者：学部3・4年生60名程度、大学院生（博士前期課程）：8名 |
| 12月16日（金）<br>主催<br>（公社）計測自動制御学会システムインテグレーション部門      | 有澤雄介（博士前期課程2年）がFUTURE SERVICE DESIGN AWARD 2016にて銀賞受賞（作品名「24h Apartment」）。12月16日（金）、第17回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会会場（札幌）にて表彰式が開催された。  |

# 編 集 後 記

『東洋大学大学院紀要』第53集をお届け致します。本集には、文学研究科38篇、社会学研究科8篇、法学研究科4篇、経営学研究科6篇、国際地域学研究科5篇、福祉社会デザイン研究科10篇、計71篇の論考が掲載されています。原稿を執筆下さった皆様、また論文の指導及び査読に当って下さった先生方、さらに編集実務を引き受けて下さった大学院教務課の皆様に、この場をお借りし心よりお礼申し上げます。

『大学院紀要』につきましては、学長から、①『大学院紀要』を継続して作成することの適否、②年次刊行物の紙媒体を廃止して電子媒体のみに切り替えることを含めた今後の作成方法について、検討依頼がありました。①については、『大学院紀要』が大学院生にとって学位取得に繋がる研究発表の場でもあることから、「継続して作成していくこと」に意見が一致しましたが、②の「紙媒体での刊行を継続するかどうか、電子媒体のみに切り替えるか」については、各研究科委員会における審議が必要との判断から、各研究科委員会の意見を調査致しました。その結果、『大学院紀要』は「紙媒体」での刊行を継続するものの、『修士学位論文要旨・審査報告書』、『博士後期課程研究報告書』については、電子化することと致しました。なお、査読論文につきましては、論文修正の期間を十分確保するため、来年度、論文修正指導期間の見直しを各研究科委員会に諮ることと致しました。

年次刊行物編集委員長  
堀 雅 通

## 【大学院年次刊行物編集委員会】

|                |                    |
|----------------|--------------------|
| 岩井 昌悟（文学研究科）   | 中山 尚夫（文学研究科）       |
| 松田 英子（社会学研究科）  | 芦野 訓和（法学研究科）       |
| 峰尾美也子（経営学研究科）  | 川瀬 晃弘（経済学研究科）      |
| 堀 雅通（国際地域学研究科） | 稲沢 公一（福祉社会デザイン研究科） |

## 東洋大学大学院紀要 第53集

社会学研究科  
福祉社会デザイン研究科

2017（平成29）年3月15日 印刷発行  
（非売品）

発行者 東洋大学大学院  
東京都文京区白山5丁目28-20  
電話 03（3945）7250